

## 平成 27 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■荒砥地区：7月29日（金）午後7時30分～9時 参加者数 55名

- Q. ①企業誘致、雇用創出に非常に熱心に取り組まれてきたが、実情はどうか。
- ②廃屋の解体について見解を聞きたい。
- ③税外負担の問題について見解を聞きたい。
- A. ①四季の郷地内の工業用地といわれる土地については売却されている。そこで操業されている一社が今年4月倒産、撤退されている。もう一社、土地は購入しているが、まだ操業されていない土地がある。今年度で4年目。地元の企業とコラボレーションできないかと進めさせていただいている。少しずつ発展されるものと期待している。
- 製造業全体としていい状況にあると把握している。特に自動車関連については、良い状況にある。設備投資をしたいという企業も3社ほどから相談あり。設備投資も進んでいる。支援する際は、雇用の数を増やしてほしいとお願いしている。しかし、小売り・飲食の景況は厳しい状況である。
- A. ②空き家対策は、「空家等対策の推進に関する特別措置法」という法律が制定された。町としては、この法律に基づいて対応していく。町の空き家の状況は、平成25年度、各地区の自主防災組織に協力いただいて状況を調査し、空き家372件、そのうち危険だと思われる空き家は9件だった。まず使える方の空き家は、何とか使っていただく方向で考えている。空き家バンクをつくり、利用できるような方向に持っていけないか取り組んでいる。危険な空き家は、基本的には個人で対応していただきたいと考える。その所有者または管理をしている方の情報は、法律の中で調査、把握し、町から指導・命令・勧告という措置を行っていく。
- A. ③税および使用料以外については、それぞれの組織・団体が、その設立、計画をもってその運営等に必要な費用について会費等々の名称で協力いただいているもの。具体的には、衛生組合連合会、社会福祉協議会会費、日本赤十字社の社費、学校後援会・消防後援会などの組織がある。その会費等は、それぞれの組織で予算を組み、負担、協力いただきその組織運営なり、活動が展開されているもの。第一義的には、税外負担ということで、それぞれの団体・組織の中で必要に応じた対応をなされているもの。それぞれの団体の自主的な運営と考えている。
- Q. 施設整備について、基準に照らして、危ないという判断が出ているが、承知していな

い部分がある。町の 65%を占める森林を今後有効に活かせるシステムをつくるという方向性はふさわしい。県策、国策大いに協力し、予算を呼び込みながら結果的には町民のためになる森林運営と一緒に解決できるような形でのあり方をのぞむ。町民の合意形成には丁寧に、慎重さがほしい。

A. 今回の施設整備において、合意形成、丁寧な説明は非常に大事だと考えている。今後、基本設計を行う際にも皆様からのご質問、ご意見にお答えし、ご理解を得ながら合意形成に向かっていきたい。

プロポーザルとは、基本設計をしてもらうための業者を決めるため、基本構想、町の考え（木造・町内業者との連携・町内産材をどう使うか）を説明し、企画を提案していただく企画の競争。一番町の考えに近い業者を選定し、約半年かけて町の考えに合わせた設計書をつくっていく。基本構想では、概算の事業費はあるが、基本設計、実施設計の中でできるだけコスト削減し、後年度負担をできるだけ圧縮するよう検討。

どうやって山の管理をしていくか、管理をする人を育てるか、出てきた木材をどう加工していくか、結果として木造の建物ができる。木材の利用を促進して結果を大きくするとその手前が進行される、山の手入れをどこまでできるか。山仕事ができる人をどう育てるか。林業振興、産業振興していきたい。

現在産業振興課で、森林の境界確定を進め森林整備を行っている。木造の建物の先は山を整理するという。関心を持っていただきたい。できるだけ人を山に戻していきたい。

Q. まちづくり複合施設は、工事が始まると騒音や工事車両の問題が出てくる。町内に対する説明は、どの時点で、何回行うのか。

A. 確実に説明会を行う。来年消防庁舎建設を予定しているので、その前に行いたい。工期はまだはっきりしないが、よろしくお願いします。

Q. 工事前、工事始まってからと必ずやってほしい。

A. ぜひやらせていただく。

Q. 5.6年前の座談会で、まだ使える木がないという答弁だった。今回の整備は町産材を使うという計画だが、本当に使えるようになったのか。今年度中に基本設計。町民に中身が知られていない実態。町産材木も使われるのか、どこの木、どこの製材なのか。今年度中でできるのか。

分離発注していくのか。分離発注の中で白鷹町に落ちるのか。もう少し時間を取っていただけないか。

A. 現在相談しているのは鮎貝自彊会。林齢 70~80 年。一部はあゆ一むにも使っている。必要な材木の倍くらいの伐倒になる。歩留まりが半分。試験伐倒も実施。自彊会の山は、50 年生の木も多いと聞いている。今から手入れをしても使えるのは 30 年後になる。林業を産業にもしたい。

分離発注は、鶴岡市がやっているが、市が使う部材は、全部市が発注する仕組み。製材までして施工業者に供給。人的に整い、施工業者、製材者の連携ができるところができるもの。我が町では難しい。町内の業者の調整を行い、木材の供給ができるチーム、システムをつくりたい。一部話もしており、今回限りではない。町内の業者をどう連携するか、木材の調達・供給をするチーム作りができないか検討している。

基本構想に 2 年かけており、基本設計は約半年で行う予定である。町として決断していく。実施設計は 1 年、建築はそれ以降となり細かに説明し意見を伺いたい。

Q. ①旧西中、旧鷹山小学校の跡地利用の計画は。

②畔藤キュウリ、岡野台ごんぼ、枝豆などのプロジェクトの検証しているか。ふるさと納税と農業が連携しているか。

A. ①旧西中学校跡地については、企業誘致してきた経緯もあるが成就しなかった。白鷹福祉会から白光園移転の要望もある。旧鷹山小学校は、体育館とグラウンドは一般開放している。庁内のワーキンググループにより検討している。

A. ②産業振興戦略会議では、県内一の出荷量の生乳と、日本一の生産量の紅花の振興を図ることを目的とし事業を展開している。生乳については、一次産品の方が利益が高い基本構想に 2 年かけている。ということもありなかなか進まない。紅花については、観光交流推進計画の中でも紅餅を 200 キロにしたいという目標を立て取り組んでいる。6 次産業化としては、取り組みの中から商品になってきたものもある。売れる商品をつくる取り組みをしている。

枝豆は伸びている作物。米が低迷している中で枝豆の一次加工、商品化に取り組んでおり、産業フェアで提供しアンケート実施。農産物とふるさと納税の連携については、特産品について注目されているので取り組んでいく。